

桂木ゆず イチオシレシピ

町の特産品『桂木ゆず』を使ったレシピをご紹介します
 問合せ／役場産業振興課商工観光係 ☎049(295)2112内線213
 写真・レシピ協力／女子栄養大学

甘い照り焼きのたれを、ゆず果汁ですっきり
 さわやかに。苦味が出ないように、果汁は最後
 に加えます。

Vol.02 ゆず味の豚照り焼き

1人分／326 kcal／塩分 1.4 g

材料(2人分)

豚ロースしょうが焼き用肉…6枚(約200g)

小麦粉…適量

a しょうゆ・酒・みりん
 …各大さじ1

サラダ油…大さじ1/2

ゆず果汁…大さじ2(約1個分)

ゆずの皮(せん切り)…1/2個分

サラダ菜…適量

ミニトマト(半分に切る)…4個

作り方

- ① 豚肉は小麦粉を薄くまぶす。aは混ぜ合わせる。
- ② フライパンに油を中火で熱し、豚肉を重ならないように入れ、両面を焼く。焼き色がついたらaをまわし入れて火を少し強め、フライパンを揺すりながらたれをからめて照りを出す。
- ③ ゆず果汁をふり入れ、手早くからめて火を消す。
- ④ 器に盛り、ゆずの皮を散らして、サラダ菜、ミニトマトを添える。



歴史散歩

第277回

富士への祈り
 町内に残る富士講碑

平成25年、富士山は関連する文化財とともに「富士山・信仰の対象と芸術の源泉」の名で世界文化遺産に登録されました。美しい山形から奈良時代の和歌や江戸時代の浮世絵のテーマにも取り上げられていた富士山は、神が宿る山として古くから崇拜される山でした。江戸時代以降、「富士講」と呼ばれる富士山を信仰する民間信仰が広まりました。

富士講は、講員が集まって経典を唱和する「オガミ」と呼ばれる行事と富士山への登頂を中心に活動します。特に富士登頂は、講でお金を積み立て、代表者を選抜して行っていました。

埼玉県内には、かつて数多くの富士講が存在し、富士講にまつわる史料も多数伝わっています。なかには、富士山を模した人工の塚である「富士塚」や富士登頂を記念して建てた

「富士講碑」など屋外に残る富士講関連の史跡、石造物もあります。毛呂山町内にも下川原や沢田、川角、葛貫、小田谷地区など各地に幕末から明治にかけての富士講碑が存在します。富士講碑は、講が活動していた時期や講員の参加人数などを知ることができる貴重な史料です。

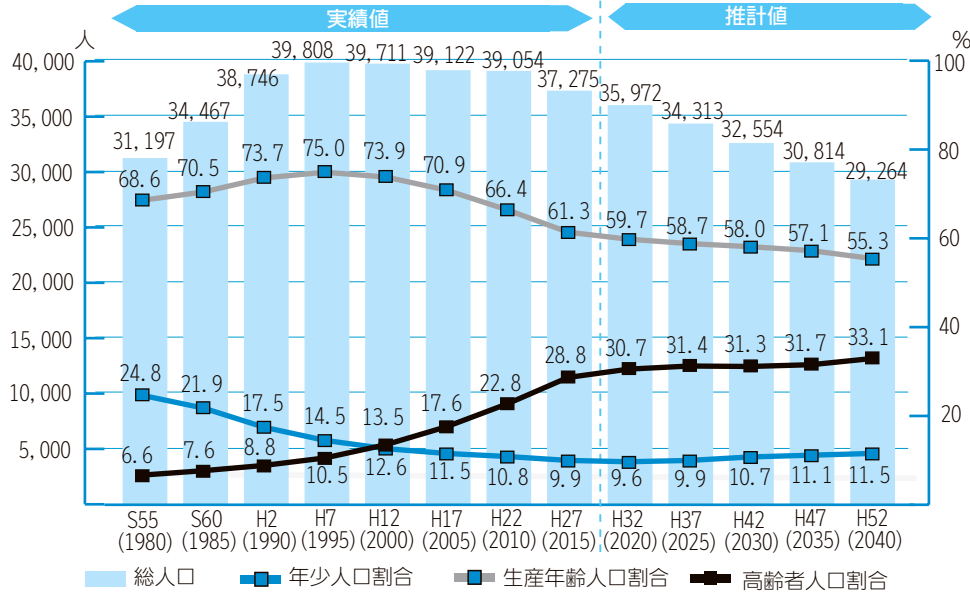
毎年7月から9月の登山シーズンに数多くの登山者でにぎわう富士山の登山道を、江戸時代から明治時代の富士講の講員たちも一歩一歩を踏みしめながら頂上をめざしたのでしょう。

歴史民俗資料館では、18日まで富士講をはじめとした信仰の旅についての企画展「祈りの旅／村びとの旅事情」を開催しています。

葛貫地区に残る富士講碑



●総人口及び年齢3階層別人口割合の推移と見通し



※実績値は「国勢調査」、推計値は毛呂山町人口ビジョンより
 ※年少人口：15歳未満の人口、生産年齢人口：15歳以上65歳未満の人口、高齢者人口：65歳以上の人口

生産年齢人口(15歳～64歳)
 H27 61.3% → **H52 55.3%**
 高齢者人口(65歳以上)
 H27 28.8% → **H52 33.1%**

2

未来のために
公共施設を
 考えよう

公共施設等総合管理計画

問合せ
 役場企画財政課企画係
 ☎ 049(295)2112 ㊟ 323

平成27年度の扶助費は10年前の2倍以上に

町の公共施設の在り方を考える上で、今後の人口の推移や財政の見通しが密接に関わってきます。
平成52年には人口3万人を下回ると推計
 毛呂山町の人口は、平成7年の3万9808人をピークに減少傾向にあります。平成52年には2万9264人となり、3万人を下回ると推計されています。また、年齢構成別に見ると生産年齢人口が55・3%まで減少し、高齢者人口は33・1%まで増加すると見込まれます。
扶助費など義務的経費の増加が顕著に
 財政面において過去10年の歳出の実績を見ると、義

務的経費のうち扶助費の増加が顕著です。平成17年度では約8・4億円でしたが、平成27年度では約19・4億円となり、2倍以上増加しています。今後予想される人口減少・少子高齢化を考えると、税収の減少、扶助費の増加に伴い、公共施設の改修や建替え等に充てる費用を圧縮せざるを得ない状況が予想されます。
 限られた財源で、どのように公共施設を維持・管理していくかが求められています。
 ※扶助費・・・社会保障制度の一貫として住民福祉を支えるための経費で、社会福祉費、老人福祉費、児童福祉費等が挙げられます。

●歳出の推移

